

時	論
新	論
理	想
論	

南アフリカとサウスカロライナ

出口 正之 (でぐち まさゆき)

本館文化資源研究センター

英字日本字混合

米国のバラク・オバマ大統領の大統領就任式が終わった。歴史的な就任式であっただけに、多くの人びとの関心を呼んだ。この就任式にあたって、日本でも、じつは、「歴史的なこと」が起きていたことにお気づきだろうか？ 一月二一日付朝日新聞朝刊(最終版)は、就任式の演説要旨を日本語とともに、英文でも掲載したのである。さらに一面の社名下のおもな記事の紹介覧に、「Inaugural Address 英文要旨」と表記した。これもまた、かつてない歴史的なことである。もちろん、日刊紙が英文を解説するとき、必然的に英文を掲載することはこれまでもあったが、大統領就任演説要旨をそのまま英文で記載したり、「大統領就任演説要旨」と表記すればよい箇所において、「Inaugural Address 英文要旨」という英字日本字混合の表記を使ったりしたという日本史的な重さは、初の黒人大統領の誕生という米国的な重さに勝るとも劣らない。

このことは、日本の日刊紙が「日本語で記載する」という慣習を破ったことだともいえるだろう。また、ローマ字はすでに、GDPやNPOなどの略号として、日本語中に取り込まれていることを考えて、過激な言い方をすれば、「英文を日本語のなかに取り込んだ」という逆の言い方が可能かもしれない。近年、インターネット

時代に「日本語」をめぐる議論は活発化してきている。『日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』(水村美苗著)などがベストセラーになっていることも、背景にはあるのだろう。

変換の問題

さて、表題の南アフリカとサウスカロライナ。この不釣合いさに何か感じるだろうか？

このふたつの地名、「南アフリカ」は South Africa の、また、「サウスカロライナ」は South Carolina のあだ名。

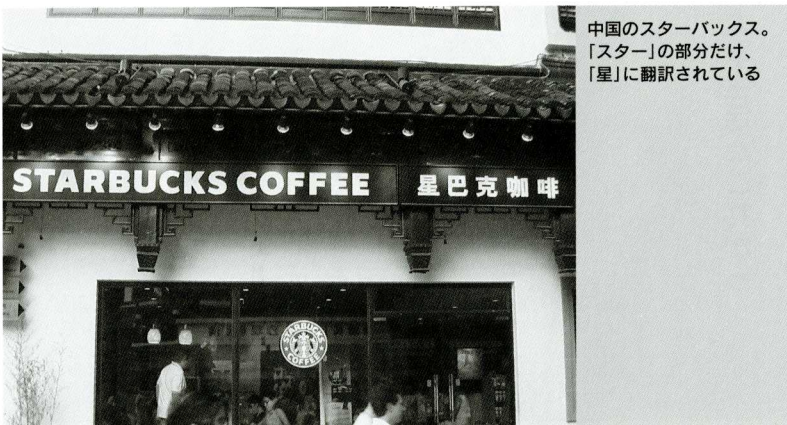
ここまで書けば、おわかりの通り、管見の関心は、なぜ南アフリカは「南」アフリカで、サウスカロライナは「サウス」カロライナなのか、という点である。

地名の「一部を翻訳」というルールを仮に認めて、それを日本の地名に置き換えて考えてみたらどうなるだろうか。「東」の英訳は「イースト」だから、「東京」の英語が「East Kyo」ということになるだろう。

単語と単語の変換に生じるハイブリッド化や不規則変化は、「日本語」と「英語」という軸だけではなく、例えば「墨字(点字)に対しての一般の文字のこと」と「点字」という軸でも生じている。もっと身近で言えば、「文字」と「コンピュータ文字コード」の変換でも起こっている。

さらに、視野を広げると、数式・化学式・音符などさまざまな表記方法のなかに、この種の変換の問題が存在しており、しかも、インターネット時代に顕在化してきていることも指摘しておきたい。

バラク・オバマ大統領誕生の新聞報道を見ながら、「チェンジ」というメッセージは、いつの日か日本の新聞には、文字通り「change」として掲載されるのではないだろうかという思いを強くした。



中国のスターバックス。「スター」の部分だけ、「星」に翻訳されている